

NY 市場レポート

◀ NY 市場概況 ▶

NY 市場では、欧州市場の流れを引き継ぎ、序盤はやや上値の重い動きとなった。しかし、トルコ・リラが最安値から持ち直したことを受けて、トルコ情勢への警戒感が和らぎ、相対的に安全な資産とされる円を売ってドルを買う動きが優勢となり、ドル円・クロス円は堅調な動きとなった。また、米主要株価が堅調な動きとなったことも影響した。

主要な米経済指標結果

7 月 NFIB 中小企業楽観指数 107.9 (予想 106.8・前回 107.2)



出所：Bloomberg

7 月輸入物価指数 (前月比) 0.0% (予想 0.0%・前回 -0.4%⇒-0.1%)

7 月輸入物価指数 (前年比) 4.8% (予想 4.5%・前回 4.3%⇒4.7%)

7 月の米輸入物価指数は、前月から横ばいとなり、前年比は+4.8%と前月、予想を共に上回った。石油・石油製品は前月比+0.9%、前年比+43.6%となり、石油を除く品目は前月比で-0.1%、前年比で+1.3%となった。原油は+1.2%、食品-1.8%、自動車・同部品は横ばいとなった。輸入元の国・地域別では、中南米からの輸入価格は横ばい、日本は+0.3%、カナダは+0.1%、EUは-0.1%、中国は-0.2%。輸出物価は、前月比-0.5%と13ヵ月ぶりのマイナス。前年比は+4.3%。農産物が前月比-5.3%、農産物以外の品目は横ばい、自動車・同部品は-0.1%下だった。



出所：Bloomberg



出所：Bloomberg

米主要株価は5営業日ぶりに反発

米株式市場は、前日までの続落で割安感が出た銘柄を買い戻す動きが広がったことや、米企業の好調な決算も加わり、主要株価は序盤から堅調な動きとなった。また、トルコの通貨リラの下落が一服したことも投資家心理を下支えた。ダウ平均株価は、序盤から堅調な動きとなり、一時前日比 151 ドル高まで上昇し、5 営業日ぶりに反発となった。



出所：Bloomberg

セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	素材	1.46%	1	ウォルグリーンBA	3.28%
2	通信サービス	1.24%	2	マクドナルド	1.56%
3	消費者サービス	0.88%	3	DowDuPont	1.46%
4	金融	0.54%	4	ウォルマート	1.35%
5	テクノロジー	0.51%	5	マイクロソフト	1.25%

出所：データを基にSBILMが作成

ドルは主要通貨に対して堅調な動きとなった

序盤は欧州市場の流れを引き継ぎ、序盤はやや上値の重い動きとなった。しかし、トルコ・リラが最安値から持ち直したことで、トルコ情勢への警戒感が和らぎ、相対的に安全な資産とされる円を売ってドルを買う動きが優勢となり、ドル円・クロス円は堅調な動きとなった。また、米主要株価が堅調な動きとなったことも影響した。ただ、マーケットではトルコ情勢を巡る先行きはまだ不透明であるとの見方から、終盤にはやや上値の重い動きが続いた。ユーロは、トルコに対する欧州金融機関のエクスポージャー懸念が意識され、大半の主要通貨に対して下落となり、対ドルでは2017年7月6日以来の安値を付ける動きとなった。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。